



Title	和歌
Author(s)	上羽, 浅子
Citation	懷徳. 1938, 16, p. 51-51
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89008
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

水神の怒りにあひて忽ちに別莊地帶砂原となる

日本一の別莊地とぞたゝへられし芦屋住吉地價下るらし

銃後の片片

仲田應弘

摘出彈並べる中に左眼窩内の小銃彈は毀れてをらず

ミオトニン買ひたる青年將校は豫防具なども包ませてをり
たくましき乗馬の兵の通れるに正月に入りし君がまじれり

中谷正一君應召後、年貢滞納のゆゑに小作田を取上げらる
わが家は麥播ける頃と思ふべし戦へる補充特務兵の君

岡山先生御重態のよしをきゝて

上羽浅子

幾年も前に聴きたる講義なれ明瞭なるお聲の未だ耳底に
床前に詩作され居しお姿をあふぎ見たるは先頃のこと

或る日叔父の家にて詩の會ありて

席上の題早も出されしか人等むぎ／＼の思ひにひたる
苦吟せる人等のそばを言たてずあたゝかき茶をわれは注ぎまはる